

GLOBAL TIMES VOL.6

平成28年度能勢高校SGH最終発表会

2月4日（土）、能勢町浄るりシアターホールにて、「平成28年度SGH研究発表会」を開催し、生徒のプレゼンテーションや展示を行いました。生徒たちにとってこの発表は、これまでに積み重ねてきた課題研究やさまざまな場所で行ってきたプレゼンテーションの集大成となりました。来場者からは多くの質問やご意見、アドバイスをいただき、次へとつながる有意義な発表会となりました。今後もグローバルな視点で地域の課題を考察し、解決に向けて実践できるよう、SGH課題研究に取り組んでまいりますので、地域のみなさまのご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。また、この度はご多忙の中、多くの方々にご来場いただきましたことに心から感謝申し上げます。

○課題研究発表テーマ等

① コスタリカ留学体験報告（英語、日本語発表）

“Costa Rica ~Pura Vida~” 「コスタリカと私の留学生活」
2年 大城桜子

② 課題研究プレゼンテーション（英語発表）

“Beekeeping in Shaamar”
「モンゴル・シャーマルでの養蜂について」
2年 スーパーグローバルスタディ（SGS）受講生徒11名

③ ビジネスプランコンテストエントリー作品（日本語発表）

「ポケット冷蔵庫からグローバルがみえる」
1年 稲原龍一

④ 課題研究プレゼンテーション（日本語発表）

グループA：「モンゴルのストリートチルドレン～その原因と取組～」2年 向井瑞稀、辻美咲、小林航大
グループB：「ふるさと創生～シャーマルプラン～」2年 三谷祐生、中田有咲、堂下桃香、池田佳菜子
グループC：「ふるさと創生～能勢プラン～」2年 小倉孟、合田真由、小谷真由、新谷すみれ

⑤ SGHの活動に関する感想 発表者全員

⑥ SGHの取組展示公開（会場ロビー）



<運営指導委員・来賓>

運営指導委員 伊井直比呂氏（大阪府立大学 大阪ユネスコスクールネットワーク事務局）、岡田尚美氏（一般社団法人国際開発機構）、片寄俊秀氏（NPO 法人みつや交流亭）、平岡光生氏（能勢町商工会）、平田篤州氏（社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団）、岡本真澄氏（大阪府教育センター）、松下信之氏（大阪府教育センター）
来賓 上島一彦氏（大阪府議会議員）、上森一成氏（能勢町長）、若林博行氏（大阪府教育庁）



講座と講師の紹介 (Lecturers)

◆ 1年 SG 基礎知識講座

第12回 『浄るりの基本知識と実践』

●松田 正弘 さん (浄るりシアター館長)、岡本 功 さん (鹿角座) 他5名

12月1日(木)、能勢の伝統芸能である浄瑠璃についての講演とワークショップを行いました。受け継がれている歴史、文化の背景を知ることができ、実際に浄瑠璃の人形を操った人形浄瑠璃を観劇し、体験しました。修学旅行に向けてこの人形浄瑠璃を会得していきます。



第13・14・15・16回 『日本伝統文化学習：紙芝居』 ～街角の日本伝統芸能～

●安野 だんまる さん (ヤッサン一座 プロ紙芝居師)

ヤッサン一座のだんまるさん、ぼんまるさんは、京都国際マンガミュージアムを拠点に世界を駆けめぐるプロの紙芝居師です。自転車の上に紙芝居を乗せて行う昔ながらの紙芝居は、「絵は誰にでも伝わる」ということからグローバルなツールであることに気がきました。今回の講演をもとに、修学旅行でマレーシアのアスタ高校との交流で行う紙芝居を作ります。



◆ 2年 SG 基礎知識講座

第8回 『グローバル体験プログラム』

●ECC国際外国語専門学校

12月15日(木)、「英語で海外旅行疑似体験」に参加し、ホームステイ体験やエアライン体験などのワークショップを行いました。受講前は、初対面である外国人と話をすることに気後れを感じ、英語自体に苦手意識を持つ生徒が多くいました。講座に参加していく中で、単語や身ぶり手ぶりを交えて何とか意思疎通を図ろうとする意識が芽生え、受講後は、もっと英語を勉強して会話できたらより一層楽しいと実感しました。



◆ 1、2、3年 SG 基礎知識特別集中野講座

1年 農業と環境 全3回 「地域の自然環境とその希少性を知る」～地黄湿地を題材として～

●林 浩三 さん (「森とまちづくり・工房はやし」主宰 公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会)

6月17日(金)、6月27日(月)、6月29日(水)の3回、能勢町地黄地区にある地黄湿地に行き、その管理と生態系について学習しました。地黄湿地が湧水湿地であり、採光のために伐採を行い、土嚢袋などで保水対策を行っていることなどを学びました。また、サギソウやモウセンゴケなど貴重な生物を観察することができ、木の上にモリアオガエルを発見し、地黄湿地の生態系の貴重さを実感しました。



2、3年 社会福祉基礎 全2回 「日本の伝統文化を知る」～手話落語を通して～

●交遊亭 楽笑 さん (「ごきげん企画楽笑屋」主宰)

9月26日(月)、1月23日(月)、手話落語による講義とワークショップを行いました。講義は、手話の基礎知識や共生社会のあり方、落語の面白さと奥深さの話まで、日本伝統文化と人権に係る幅広い内容でした。ワークショップでは、手話の基本を学び、落語の手法を学習し、最後に、一人ひとりが教室に設置した特設の高座に上がり、手話落語にチャレンジしました。日本の伝統文化と手話のコラボレーションで、幅広い内容のグローバル学習となりました。



1年 コミュニケーション英語Ⅰ 『フランスから学ぶ地方創生』～栗の里コロプリエール村を訪ねて～

●小早川 勝平 さん（能勢町歌垣在住 元青年海外協力隊員）

12月22日（木）、フランスの栗の産地、人口2,000人ほどのコロプリエール村では、栗まつりの時には国内外から多くの人を訪れるという内容の講義でした。同じく栗の産地である能勢の地域創生の良いヒントとなりました。後半は、自身の海外経験から会得したサバイバルイングリッシュの話とその実践的練習をしました。グローバルな視点での地域活性化と英語での実践的なコミュニケーションについて学ぶ良い機会となりました。



2年 世界史A 『インドネシア・世界の宗教』～世界から地域へ～

●三上 順子 さん（能勢農家民宿「みちくさ」オーナー）

12月22日（木）、能勢の古民家で農家体験民宿「ディープな日本の古き良き時代の生活」を提供する元バックパッカーの三上さんから、その経験を基にしたインドネシア、そして世界の宗教事情、日本のお寺についての講義がありました。マレーシアへの修学旅行を間近に控え、改めて宗教や信仰について考える貴重な機会となりました。



◆2年 SG 重点分野講座

第46・48・49・50・51・52・53・54・55・56回 課題研究講座

『モンゴルの環境と経済活動』

●今岡 良子 さん（大阪大学言語文化研究科准教授）

モンゴルの首都ウランバートルのマンホールチルドレンについて、またセレンゲ県シャーマルと能勢の地方創生について課題研究を進めてきました。講義やワークショップを通し、グローバルな課題をローカルな視点で捉える力、またチームワークやリーダーシップが育まれています。最終発表のプレゼンテーションに向けた研究や準備を何度も重ねました。



第43・44回 課題研究講座 『モンゴルの環境と経済活動』

●中島 早苗 さん（NGO フリー・ザ・チルドレン・ジャパン（FTCJ）代表理事・事務局長）

モンゴルのストリートチルドレンの最近の状況と国の政策をパワーポイントやビデオで紹介していただきました。また、グループ別課題研究の「モンゴルのストリートチルドレン」を研究テーマにしているグループのプレゼンテーション作りを丁寧に指導していただきました。



第45回 『フェアトレードの仕組みと実際』

●斎藤 和子 さん 斎藤 テリー さん（フェアトレードショップ&カフェ「エスペロ能勢」オーナー）



12月7日（水）、インドネシア在住経験から、箕面でフェアトレードショップを開き、その後新たに能勢の古民家でショップをオープンしたお話がありました。過疎、耕作放棄地などの課題を抱える能勢に新たな可能性を見出し国際協力を携わってご夫婦の姿や、ショップで取り扱うさまざまなフェアトレード商品は、課題研究対象のシャーマルや、能勢のふるさと創生を考える上で大いに参考になりました。

第47回 『アクティブラーニング（AL）』～プレゼンテーションとは何か～

●藤岡 慎二 さん（(株)Prima Pinguino 代表取締役、能勢町教育魅力化コーディネーター）

12月24日（土）、プレゼンテーションの目的、要素を体系的に学ぶとともに、説得力あるプレゼンテーションをめざした実践的な指導がありました。プレゼンテーションは、伝えようとする強い気持ちと聞き手のことをよく分析することが重要であることを学びました。



校外学習・国際交流

◆箕面市国際交流協会 多文化交流センター訪問



12月15日(木)、多文化交流センター館長の岩城あすかさんから「日本の国際化」、そして、箕面市国際交流協会の役割について学びました。真のグローバル化とは何かについて学習しました。また、NPO ボルネオ保全トラストジャパン会員の佐藤譲さんから、アブラヤシ油の生産のために熱帯雨林が消滅し、オランウータンなどが絶滅の危機に瀕していることを学びました。最後に、カフェで外国人スタッフと交流し、多文化共生を体験する機会となりました。

◆能勢さとやま創造館で菊炭体験！ ～里山保全フィールドワーク～

2月25日(土)、菊炭の里 能勢さとやま創造館代表の小谷義隆さんによる菊炭についての講義や菊炭の原料となるクヌギ苗の植樹やしいたけ菌の植え付けなどの体験を通して、里山保全の重要性を学びました。また、環境経済が専門の大学の先生とゼミの学生たち、マレーシアのボルネオの自然保護が専門の大学の先生、そして、そのサークルで活動する大学生、地域で活動するボランティアなど様々な分野の方と意見交換をしました。また、来年度の課題研究「経済発展と自然破壊」にむけて大変貴重なフィールドワークとなりました。



◆在大阪モンゴル国総領事館より感謝状を授与。全国農業高校・農業大学校HPコンテスト(慶應義塾大学 SFC 研究所主催)にて特別賞(全国ベスト10)を受賞!



全国農業高校・農業大学校ホームページコンテストは、全国の農業系高校(384校)及び農業大学校(47校)よりホームページを通じて自発的な取組、農業関連情報の発信、農業の国際連携に貢献していることなどについてホームページを「独自に」審査し、表彰したものです。

本校はSGH認定校、ユネスコスクールでもあり、国際交流にも力を入れていることから、全国優秀校10校の一つに選ばれました。

在大阪モンゴル国総領事館より

平成29年度のSGH課題研究テーマについて

平成29年度は、課題研究テーマをマレーシア「経済発展と自然破壊」—エビ養殖によるマングローブ林の破壊とマングローブ林の植林—とし、大阪教育大学の乾陽子准教授の指導のもと研究を進めていきます。

海外実態調査ではマレーシアペラ州のエビ養殖団地でフィールドワークを行い、サラワク州(ボルネオ島)にてマングローブ林を含む熱帯雨林、パームプランテーション等をリサーチします。また、各民族の村で生活、漁業、農業についてフィールドワークを行い、サラワク国立大学にて課題研究及び発表を行います。

また、来年度は国内実態調査として、宮城県気仙沼市で牡蠣の養殖場でも実態調査を行う予定です。